

「木も見て、森も語る」全体論的サンゴ礁 保全のための普及・啓発の理念

中野義勝・中井達郎

琉球大学熱帯生物圏研究センター・国士舘大学

第10回日本サンゴ礁学会公開シンポジウム

日本のサンゴ礁研究の歩みと展望

2007/11/25

サンゴ礁保全活動の中で、 人々は「サンゴ礁」をどう認識してきたか？

1970-80年代: オニヒトデの食害問題

オニヒトデ駆除が目的化

サンゴ礁の価値論議の空白

1980-90年代: 石垣空港問題

日本語によるサンゴとサンゴ礁の再認識

1998年以降: 白化問題

サンゴの保全再生に主眼

サンゴ保全とサンゴ礁保全の混同

1990年代以降: 辺野古・泡瀬に見られる社会問題

サンゴ礁の社会的価値論の必要性の認識

背景として、記憶にとどめたいこと

H17年度国勢調査より、沖縄県の人口136万人、44%が都市部に住む

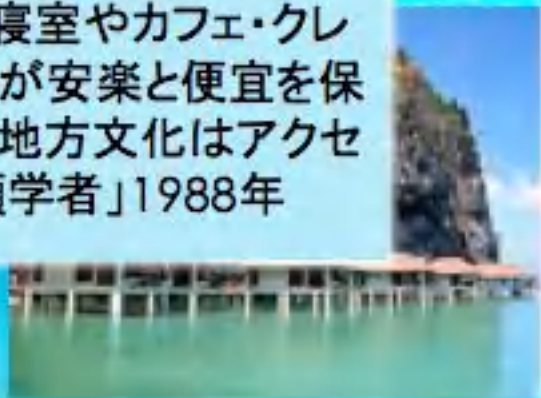
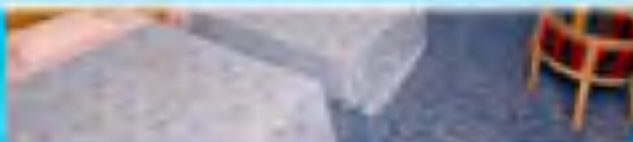
日本の海岸線3460万キロメートル、0.01%がサンゴ礁島嶼海岸(南西諸島・小笠原諸島)99.99%は非サンゴ礁性海岸

これらの都市部・非サンゴ礁地域の人々はサンゴ礁を意識して暮らしてはいない。

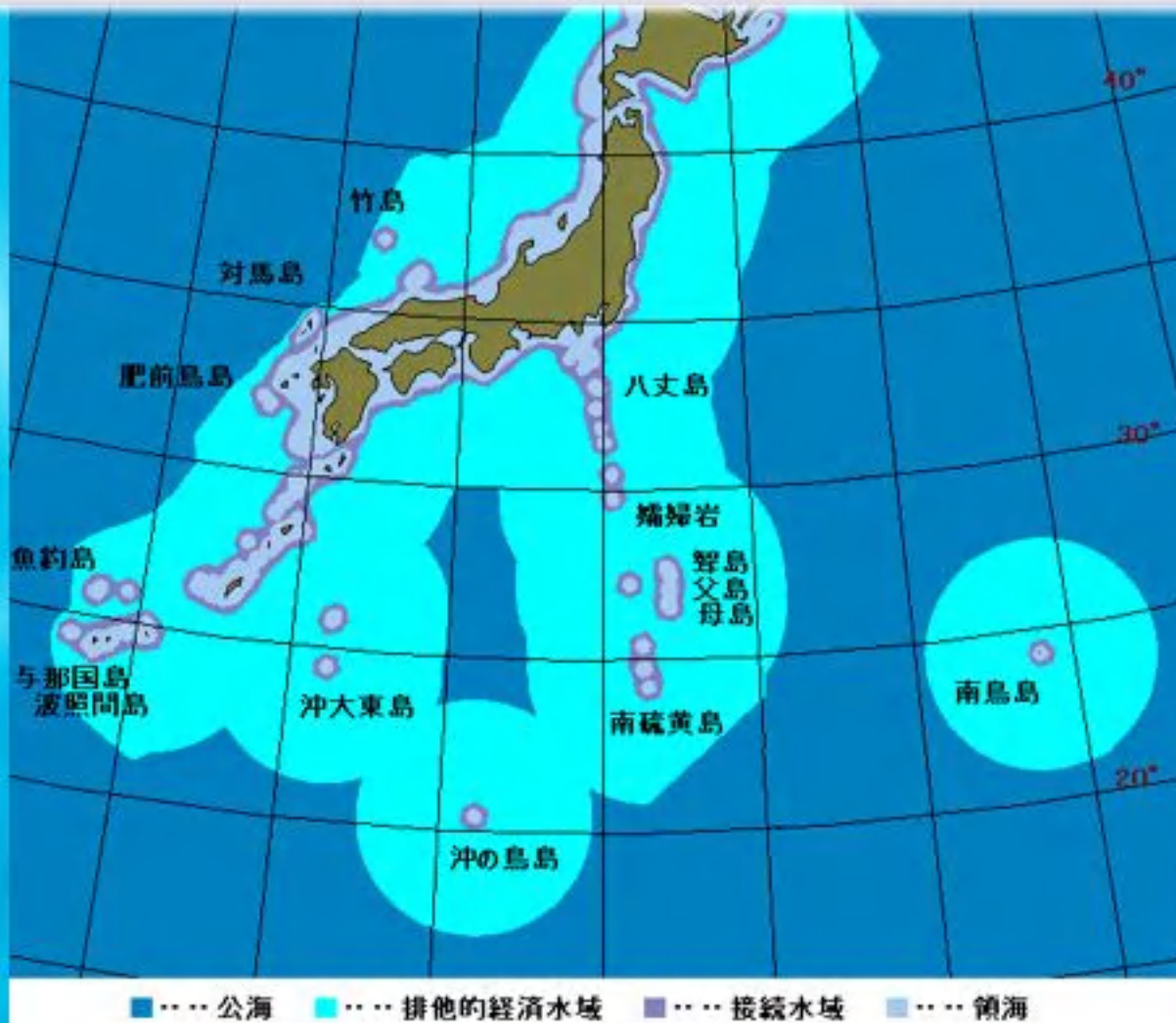
「サンゴ礁の商業イメージ」



『リゾート地とは自然の上に西洋文明がただテクノロジー的に覆い被さっているだけであり、配管・空調・贅沢な寝室やカフェ・クレジットカード・飛行機・バス・自動車と言ったものが安楽と便宜を保証している。そして、自然は単なる背景であり、地方文化はアクセサリーに過ぎない。』、ピーコック「人類学と人類学者」1988年



「海の行政イメージ」 排他的經濟水域



海上保安庁ホームページより

私たちの共有したいサンゴ礁のイメージとは？

-サンゴ礁への認識の変換・ないし再構成の必要性-

JORS 第7回大会公開シンポジウム

サンゴ礁世界の協調

～時間を越えた人との交わり～

2004年11月14日(日)
国士舘大学
中央図書館B1多目的ホール
交通：東京駅有楽町線神田駅下車徒歩1分

Program

10:30~11:40	シンポジウムの趣旨説明 長谷川 均 (国士舘大学)
11:40~14:05	「ゆりむん」の世界観を考える 堀 信行 (東京都立大学)
14:05~14:30	珊瑚、海と陸のはざまの生活世界 渡久地 健 ((財)沖縄協会)
14:30~14:55	生物学的観察者の見た サンゴ礁の世界観 中野義勝 (琉球大学)
14:55~15:20	南太平洋に最初に居住した人々 近森 正 (平成帝京大学)
15:20~15:30	休憩
15:30~16:30	パネルディスカッション 堀 信行・渡久地 健 中野義勝・近森 正 司会：中井達郎 (国士舘大学)

JORS

第8回大会フィールドトリップ

「陸になったサンゴ礁：人・生物・自然の成り立ち」
沖縄本島知念半島一帯の隆起サンゴ礁、湧水と史跡を巡るー

●案内役：堀信行(首都大学東京)・河名俊男(琉大)・渡久地健((財)沖縄協会)・中井達郎(国士舘大)・田場由美雄(沖縄県立芸大)

●観察行程：パレット久茂地(8:10発)→琉大北口(9:00)→斎場御嶽手前→斎場御嶽→知念城趾→(昼食)→垣花樋川→受水走水→港川フィッシャー(港川人発掘遺跡)→琉大北口(15:50頃)→パレット久茂地(16:30着予定)

●主な観察場所とみどころ

斎場御嶽手前：地形地質・離水サンゴ礁の観察

斎場御嶽：信仰・石灰岩生態系・地形地質

知念城趾：信仰・歴史

垣花樋川：生活・地形地質

受水走水：信仰・地形地質

港川フィッシャー(港川人発掘遺跡)：人類史・地形地質

効率的サンゴ礁保全の方法



コミュニティベースの管理

(分散的活動による
非効率化の危険)

コミュニティベースの保全

統合的なネットワークが必要



サンゴ礁保全の現場を結ぶ価値観
多様なコミュニティを結ぶ共通認識

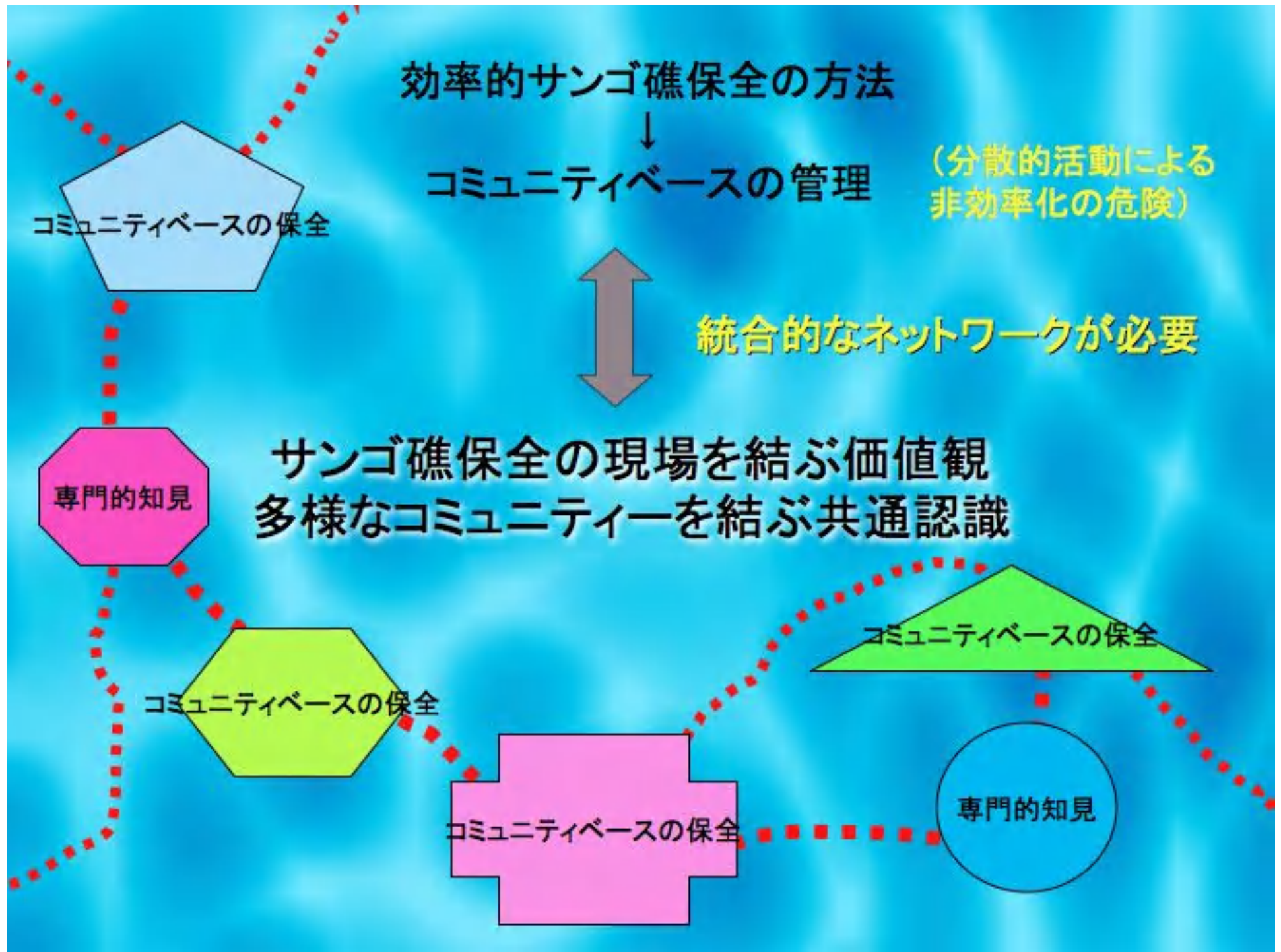
専門的知見

コミュニティベースの保全

コミュニティベースの保全

コミュニティベースの保全

専門的知見



隣の芝生は青い

経験的・文化的問題意識の形成
(動機付け)

科学的アプローチ
懐疑と実証

主観的アプローチ
印象と推測
判断

〈科学教育〉

客観的外界認識

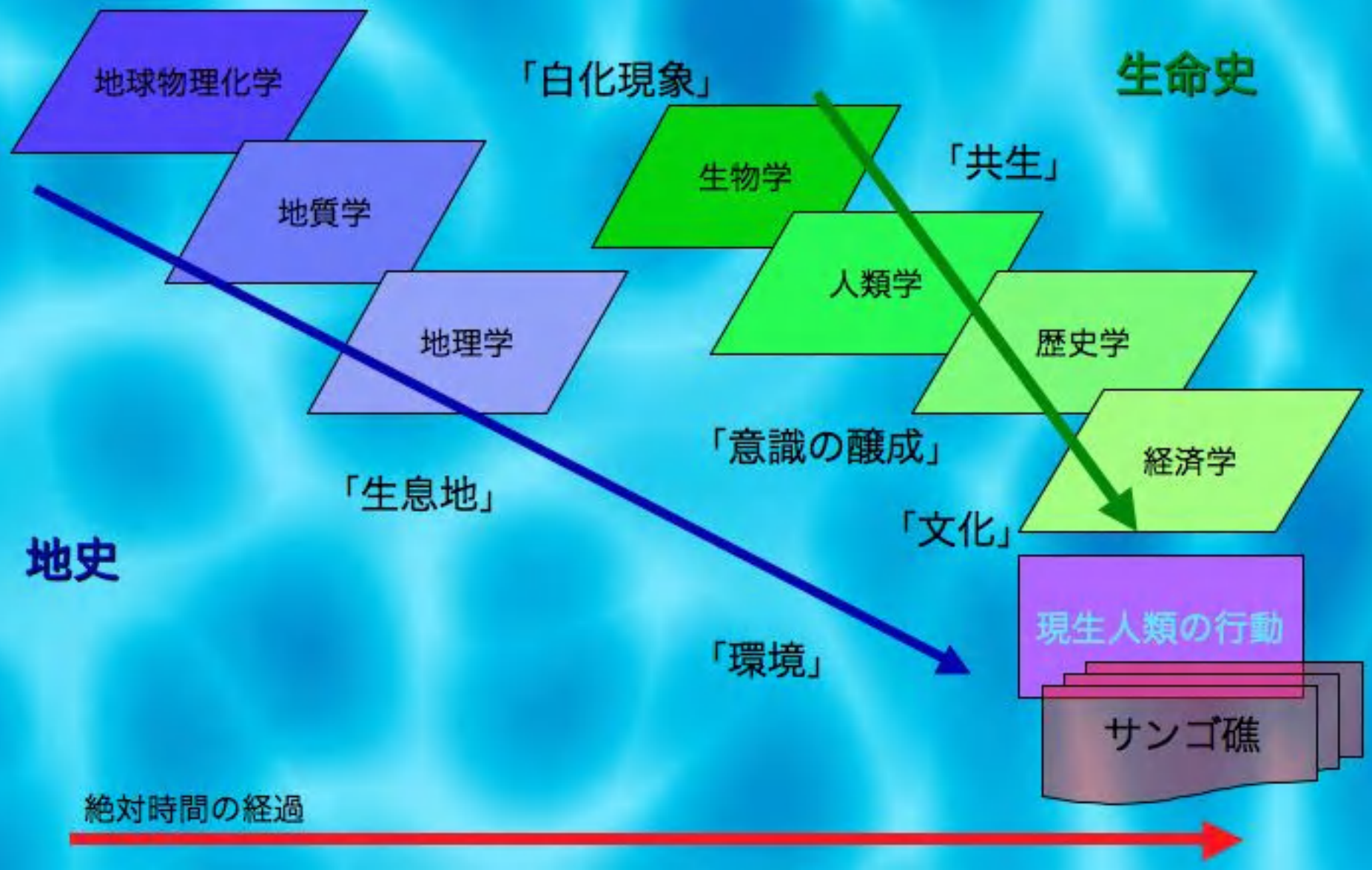
〈環境教育〉

衝動的行動

合理的行動(問題解決策)

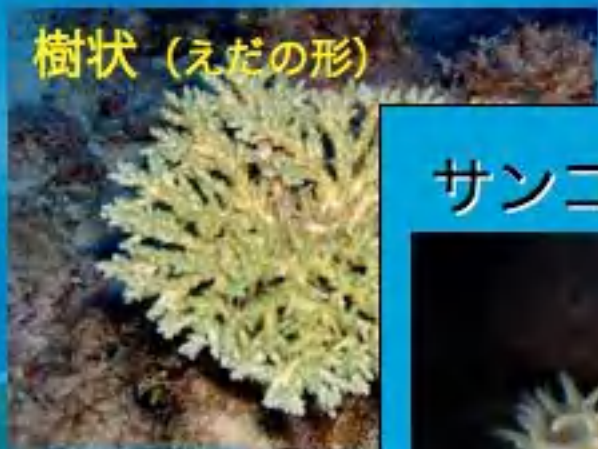


サンゴ礁をめぐる時間軸と研究の諸相



サンゴの2：これがサンゴだ！

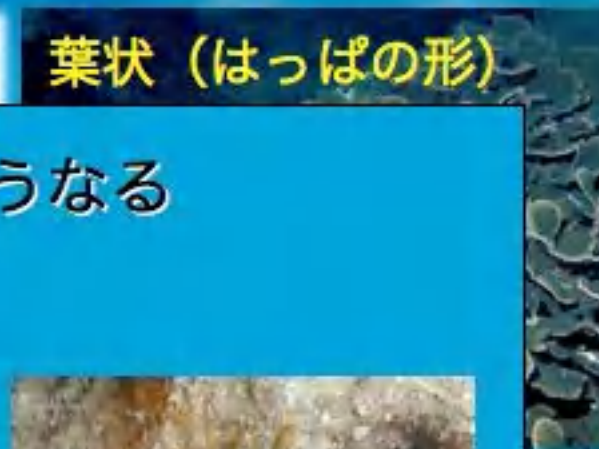
樹状（えだの形）



テーブル状



葉状（はっぱの形）



サンゴを拡大してみるとこうなる



なんかイソギンチャクみたいだね



イソギンチャク

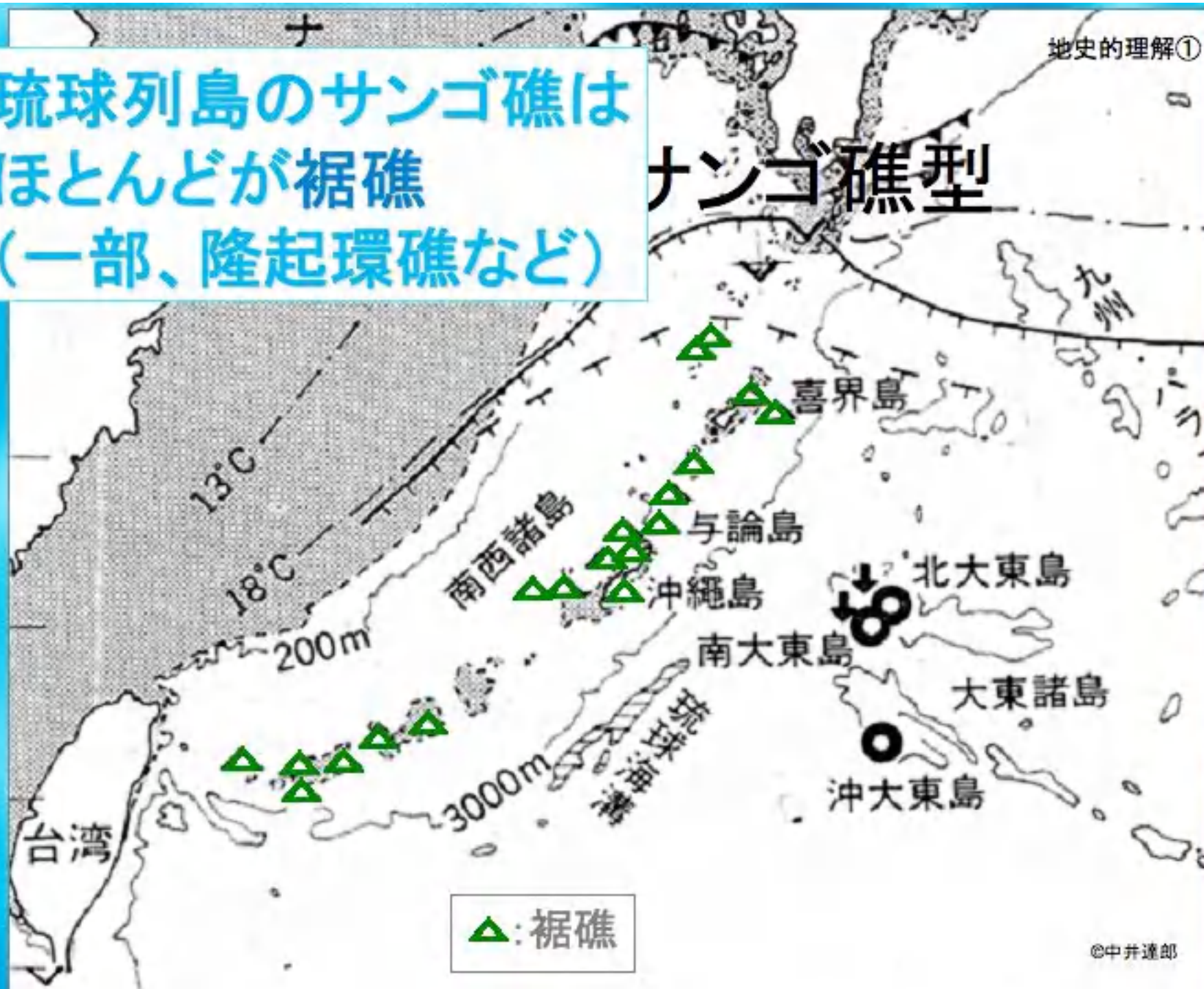
被覆状（おおう形）



サンゴにはいろいろな形があり、それぞれが競い合って暮らしている。
形は植物に似てるけど、サンゴは実は「動物」。

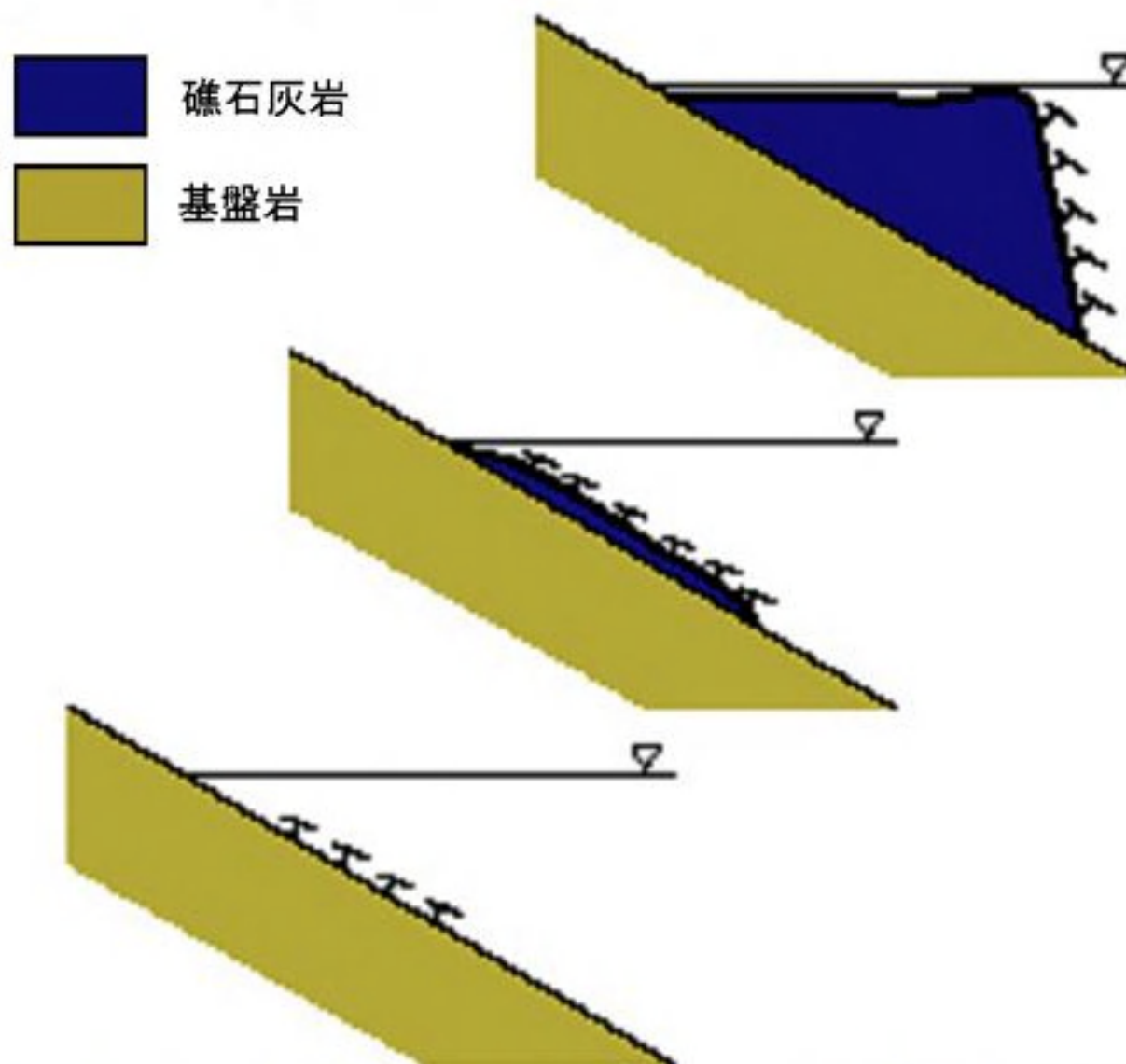
琉球列島のサンゴ礁は
ほとんどが裾礁
(一部、隆起環礁など)

サンゴ礁型



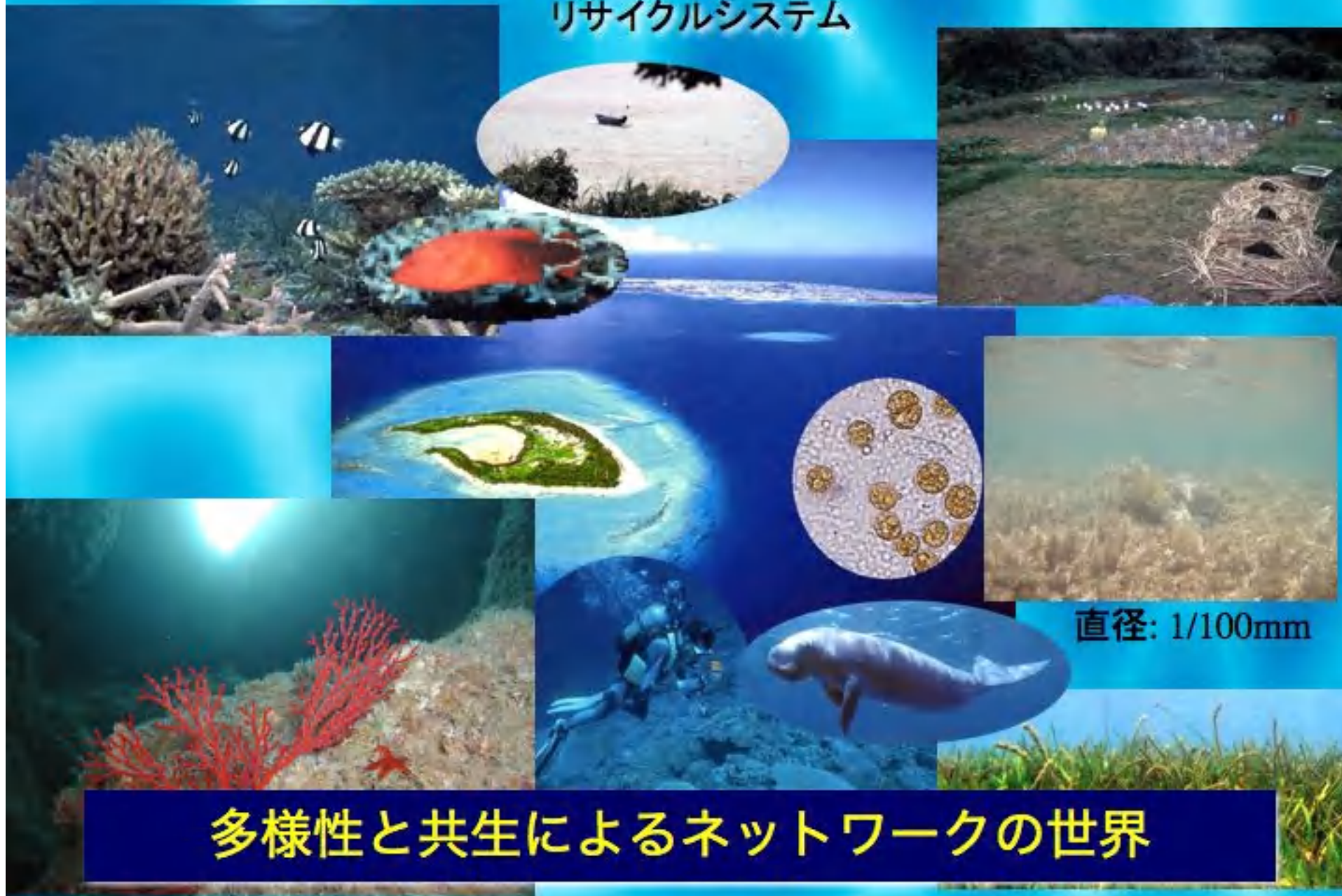
▲: 裾礁

サンゴ礁の定義



生物が造る生物の楽園：サンゴ礁 生命史的理解③

リサイクルシステム



多様性と共生によるネットワークの世界

サンゴ礁の発達と人間の定住

サンゴ礁の発達が人間の定住を可能とし、人間の定住がサンゴ礁に新たな機能を付加する。
 →サンゴ礁に人間が定住することでサンゴ礁の機能の多様性は増加する。

渡名喜島の例
 (Kan et.al. 1997)

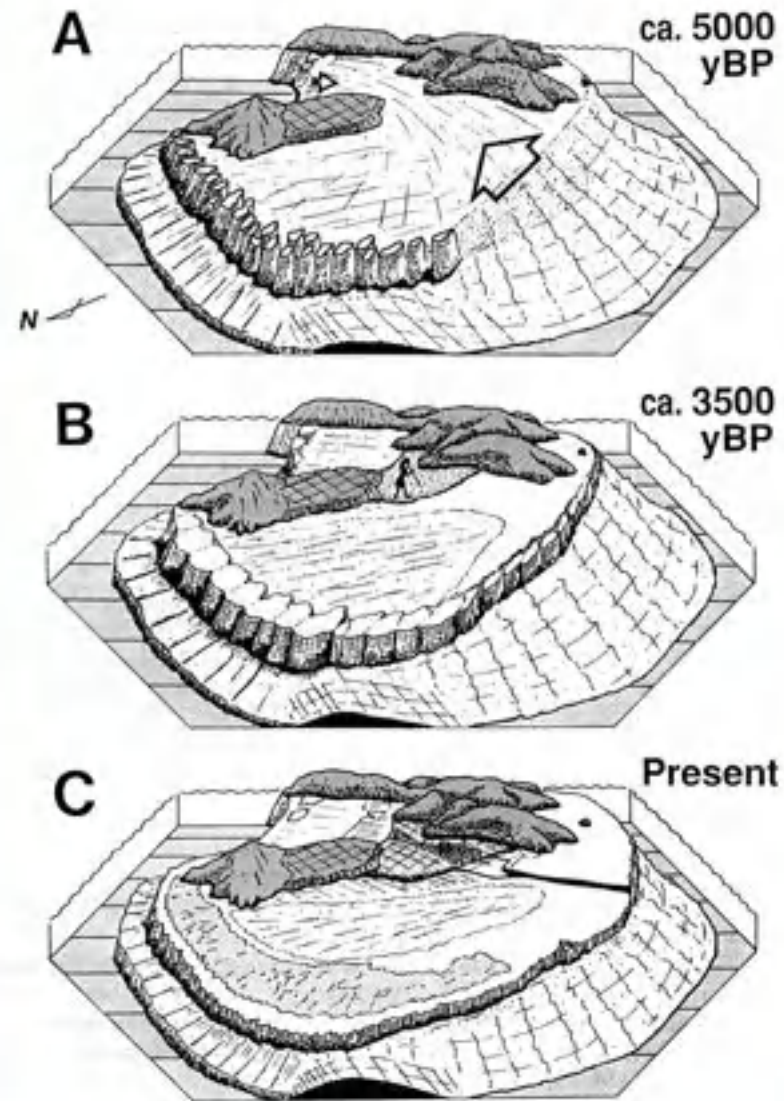


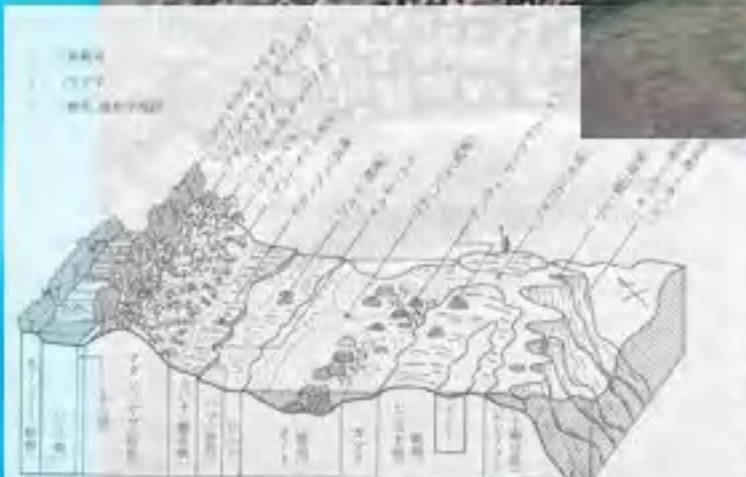
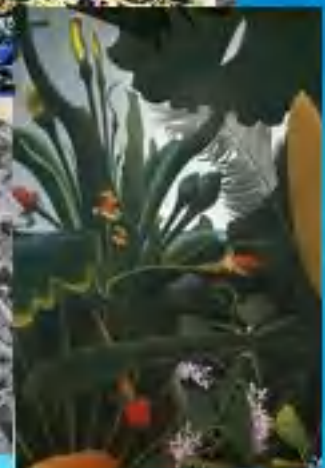
Figure 7. Schematic diagrams of the formation of the Tonaki Reef. Arrows in Fig. 7A indicate the 'Holocene high energy window' at around 5200 yBP.

サンゴ礁の島に暮らす

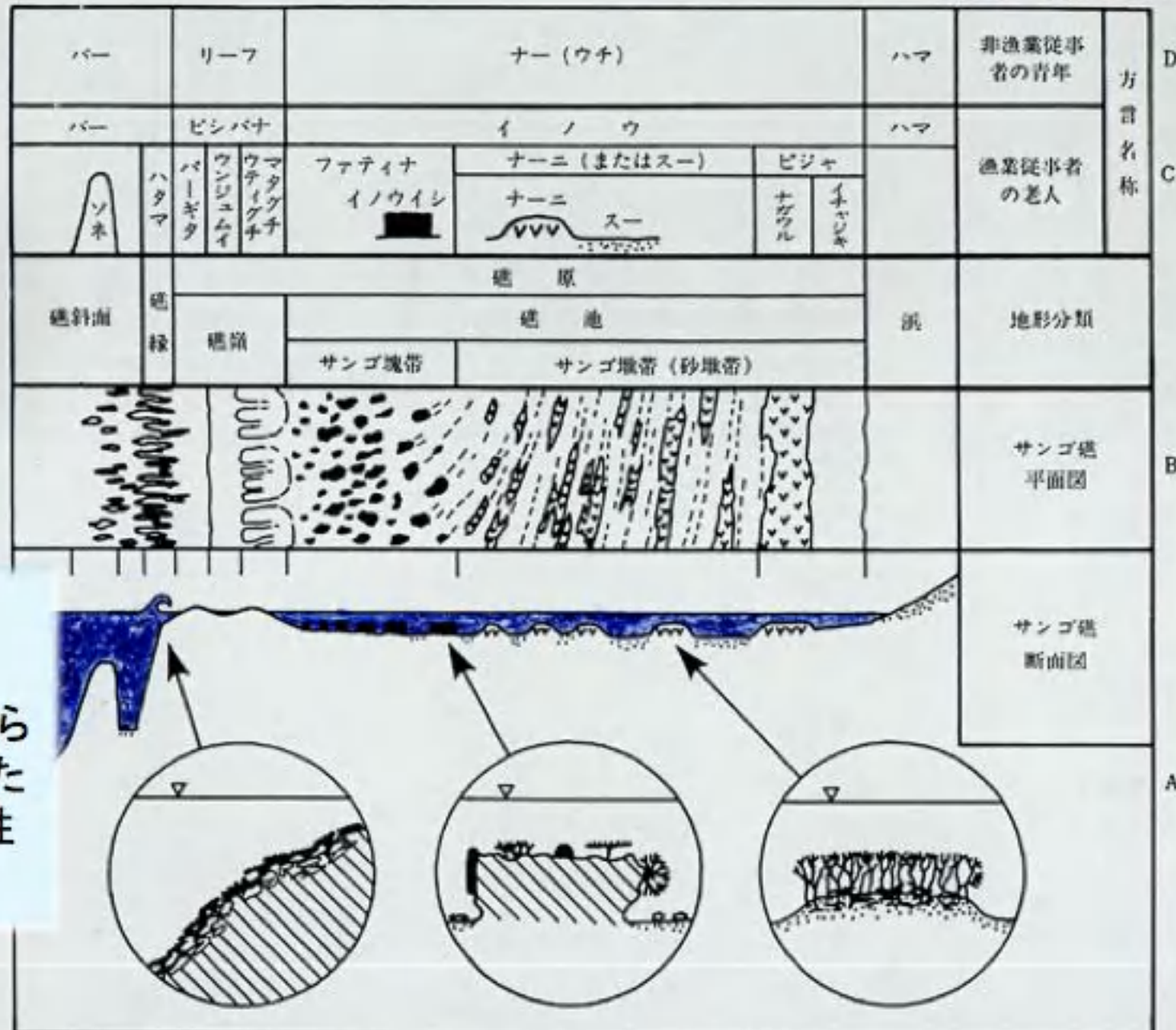
隆起サンゴ礁の地下水利を利用して弥生から続く備瀬集落

サンゴ礁の多様な機能に対応した久高の生活言語

安定した暮らしから創造される文化・芸術
→人間の生活の多様性の増大



図式1 珊瑚の立体図と方位 (高野晋久氏・枝久知氏による)
この図は、久高島の東海岸のサンゴ礁における3本の地層断面測量によって作成された。縦断に分類される沖側のサンゴ礁の代表的な形態の一つである。主潮時の干上った状態を表している。



海と人

言語表現に見られる、失われた生活の多様性

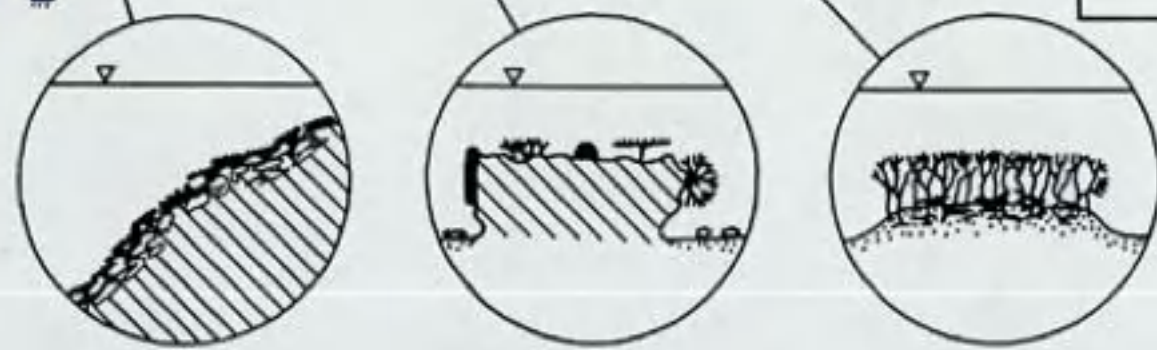


図 11.3 与論島北東部サンゴ礁の带状構造と民族分類(中井, 1981 MS および堀, 1980 より作成)

北谷町のサンゴ礁

1945

2006



- 埋め立てによるサンゴ礁礁原とそれに依存した生活の消失
- 商業活動とレジャーダイビングの隆盛
- サンゴ礁の機能の多様性の極端な劣化の例



黒潮圏文化から見通す
「サンゴ礁圏文化」の構築
サンゴ礁の価値の過去から
未来にかけての歴史的評価
の必要性

- 1: 礼文島のマクラガイ
ca.3,500yBP
 - 2: 出雲のセグロウミヘビ
 - 3: 千葉県沼のサンゴ
ca.6,000yBP
 - 4: 福岡の貝輪
ca.2,000yBP
 - 5: 港川人
ca.15,000yBP
- Cf; 柳田国男「海上の道」



The International Year of the Reef 2008

サンゴ礁とは？

あなたにとって、サンゴ礁とは何ですか？

あなたは、サンゴ礁をどうしたいですか？